

5 環境教育で対象とする主な内容（ESDとの関連を含む）

ESDの視点に立った学習活動を行うため、国立教育政策研究所は、「学校における持続可能な開発のための教育（ESD）に関する研究〔最終報告書〕」（平成24年3月）において、持続可能な社会づくりの構成概念（持続可能な社会で大切なこと）として、次の六つを例示しています。

上位概念	構成概念	構成概念の定義
社会・経済など）を取り巻く環境（自然・文化・人（集団・地域・社会・国など）の意思や行動に関する概念	I 多様性 （いろいろある）	自然・文化・社会・経済は、起源・性質・状態などが異なる多種多様な事物（ものごと）から成り立ち、それらの中では多種多様な現象（出来事）が起きていること。
	II 相互性 （関わり合っている）	自然・文化・社会・経済は、互いに働き掛け合い、それらの中では物質やエネルギーが移動・循環したり、情報が伝達・流通したりしていること。
	III 有限性 （限りがある）	自然・文化・社会・経済は、有限の環境要因や資源（物質やエネルギー）に支えられながら、不可逆的に変化していること。
人（集団・地域・社会・国など）の意思や行動に関する概念	IV 公平性 （一人一人大切に）	持続可能な社会は、基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが、地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること。
	V 連携性 （力を合わせて）	持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること。
	VI 責任性 （責任をもって）	持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンをもち、それに向かって変容・変革することにより構築されること。

持続可能な社会の構築を目指す環境教育を考えるためには、自然や生命、エネルギー、資源などの要素を個別に理解するのではなく、それらを関係付けて一つの環境として捉える視点が大切です。そこで、上の六つの「持続可能な社会づくりの構成概念」と関連付けながら、環境教育において対象とする学習内容を位置付けていくことが大切です。国立教育政策研究所の「環境教育指導資料【中学校編】」（平成28年12月）で示されている「環境を捉える視点」を参考にすると、例えば、9ページのように「環境教育で対象とする主な内容（例）」を示すことができます。

環境教育で対象とする主な内容（例）	関連する主な「持続可能な社会づくりの構成概念（例）」
<p>A 資源の循環 廃棄物の削減、製品の再利用、さらに資源の再生利用のための資源の循環を視点にした内容</p>	<p>II 相互性 「物質やエネルギーの移動・循環」</p>
<p>B 自然や生命の尊重 地球上の生命の誕生、成長の仕組みを知り、自他の生命を尊重し、自然への畏敬の念を育むことを視点にした内容</p>	<p>I 多様性 「多種多様な生物や環境要因」 IV 公平性 「生命の尊重」</p>
<p>C 生態系の保全 生態系の保全に寄与して、自然と調和して生きようとすることを視点にした内容</p>	<p>II 相互性 「生物と環境との相互関係」 VI 責任性 「環境保全への寄与・役割」</p>
<p>D 異文化の理解 多様な文化や生活、価値観を互いに尊重して互いの立場を認め合い、異なる文化を理解しようとすることを視点にした内容</p>	<p>I 多様性 「多様な文化・生活、価値観」 IV 公平性 「人権や文化の尊重」</p>
<p>E 共生社会の実現 人間一人一人の個性を生かした相互補完が、環境の保全や創造に望ましい影響を及ぼすことがあることを理解し、共に生きようとする社会の実現を目指すことを視点にした内容</p>	<p>I 多様性 「多様な個性」 V 連携性 「共生社会の構築」</p>
<p>F 資源の有限性 資源を大切に使うとともに環境負荷を減らし、省資源型社会の構築を目指すことを視点にした内容</p>	<p>III 有限性 「資源やエネルギーの有限性」 V 連携性、VI 責任性 「循環型社会の構築」</p>
<p>G エネルギーの利用 エネルギー利用は地球環境問題と密接に関係していることを理解し、エネルギーの適切な利用の仕方について考えることを視点にした内容</p>	<p>I 多様性 「資源やエネルギーの多様性」 II 相互性 「エネルギーと環境問題との関係」 III 有限性 「エネルギーの有限性」 VI 責任性 「エネルギーの適切な利用」</p>
<p>H 生活様式の見直し 環境に配慮した生活様式を考え、環境とのバランスを取ろうとすることを視点にした内容</p>	<p>VI 責任性 「生活様式の変容」</p>